令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人富山県文化振興財団
施設名	富山県利賀芸術公園
内定額	17,960　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型(公演・人材・普及)が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　業　名	実施日程	実施会場
公-01	SCOTサマー・シーズン2025	8月22日(金)～9月14日(日)	富山県利賀芸術公園
公-02	郷土芸能発表会	6月14日(土)	利賀大山房
人-01	高校生夏期演劇講習会	8月8日(金)	富山第一高等学校
普-01	出張演劇講座	7月８日(火)、11日(金) 15日(火)、27日(日)、 30日(水)	D＆DEPARTMENT TOYAMA メティス、利賀学舎、金沢21 世紀美術館、K-HALL
普-02	舞台芸術鑑賞会	8月22日(金)、29日(金)、 30日(土)	富山県利賀芸術公園

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	8	7	7
	公演事業	4	3	3
	（内、本助成対象事業本数）	3	3	2
	人材養成事業	2	2	2
	（内、本助成対象事業本数）	2	1	1
	普及啓発事業	2	2	2
	（内、本助成対象事業本数）	2	2	2
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　記入してください			

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	0	0	0
	ホール名：利賀山房　　座席数：150			
	ホール名：野外劇場　　座席数：550			
	ホール名：新利賀山房　　座席数：150			
	ホール名：岩舞台　　座席数：200			
	ホール名：利賀創造交流館　座席数：100			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	3,113	2,368	2,673
	公演事業	2,802	2,063	2,378
	人材養成事業	89	90	51
	普及啓発事業	222	215	244
	共生社会事業			
	その他　内容：			
	貸館事業入場者・参加者数	0	0	0
	その他　内容：共催事業入場者及び参加団員数	3,329	3,748	6,633
	計	6,442	6,116	9,306
開館日数		359	360	359
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））		359	360	359
施設の利用日数		297	298	290
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）		82.7%	82.8%	80.8%

備考	

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	4	14	2,802	3			1			
	共催・提携公演（※2）	4	16	3,220	3		1				
	貸館公演	0									
	計	8	30	6,022							
令和6年度	主催公演（※1）	3	7	2,369	2			1			
	共催・提携公演（※2）	3	17	3,580	3						
	貸館公演	0									
	計	6	24	5,949							
令和7年度	主催公演（※1）	2	7	2,378	1			1			
	共催・提携公演（※2）	3	24	5,569	1		1			1	
	貸館公演	0									
	計	5	31	7,947							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	SCOTサマー・シーズン2025	目標値	1,615	95.0%	観客の満足度	85%	93.60%
		実績値	2,160	97.3%	新規観客の割合	40%	30%
		メディア掲載数				10件	全国紙18件、地方紙68件、テレビ6件、Webニュース8件、雑誌5件
公-02	郷土芸能発表会	目標値	285	95.0%	観客の満足度	90%	95%
		実績値	212（出演者が互いを鑑賞した分を含めると270人）	74.4%（94.7%）	新規観客の割合	40%	52%
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人富山県文化振興財団
施設名	富山県利賀芸術公園
内定額	17,960　　（千円）

（１）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※１）を記入してください。

（※１）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	SCOT サマー・シーズン２０２５	利賀へ拠点を移して 50 年の節目となった「SCOT サマー・シーズン」事業は、観客数およびメディア掲載実績において顕著な成果を収めた。 観客の満足度においては、目標値 85.0%に対し、実績値は 93.6%に達した。 鈴木忠志氏が率いる劇団 SCOT が利賀に拠点を移して 50 年という節目の年であったため、メディア掲載数は、目標 10 件を大きく上回る計 105 件（全国紙 18 件、地方紙 68 件、テレビ 6 件等）で圧倒的な注目を集めたと言える。また、その内容も単なる紹介記事ではなく、過疎地で質の高い芸術活動を 50 年続けてきたこと自体が現代社会への提言になっているという視点から取り上げた報道が多かった。 新規顧客の割合は、目標値 40.0%に対し実績値 30.0%となった。これは、実際に利賀へ訪れた観客の数値である。SCOT の活動を応援する「SCOT 倶楽部」への新規登録者は 1,387 人で、例年の 2 倍近い増加であったことから、今後次世代がより訪れやすい、より開かれた拠点づくりを進めていく。 ○SCOT サマー・シーズンの入場料の考え方について 入場料を設定せずに「お志」でいただいているため誰がいくらどの公演に支払ったかを特定することはできない。この制度により若い人や海外からの観客は、料金を気にせず複数の公演を観劇することができ、創客の大きな要因となっている。
公-02	郷土芸能発表会	郷土芸能公演は、新規観客の割合が 52%（目標値 40%）と大きく目標を上回り、観客層の拡大に成功した。また、観客満足度についても 95%（目標値 90%）という極めて高い評価を得た。入場者率もほぼ目標に達し、本事業の「郷土芸能を現代的な舞台芸術として再定義し、次世代へ繋ぐ」という企画意図が正しく機能したためと考えられる。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	①「SCOT 倶楽部」会友登録数	①前年度より 500 名増を目指す。	①前年度より、1,387 名の増加。
	②観客満足度	②全公演事業で、必須データで定めた観客満足度の目標を達成。	②全公演で観客満足度の目標を達成した。
	③レジデント・カンパニー（劇団 SCOT）の活動への評価	③メディア、観客の SNS で概ね高評価を得る。	③全国紙 18 件、地方紙 68 件、テレビ 6 件、Web ニュース 8 件、雑誌 5 件で取り上げられメディアからの注目度、評価ともに非常に高かった。また、SNS でも高評価を得た。
人材養成事業	①応募者数	①募集定員の 8 割を達成する。富山県高等学校演劇研究協議会加盟校の 7 割（11 校）からの参加を達成する。	①参加人数は、51 人で、募集定員の 50 人を上回り目標値を達成した。参加は 7 校で、目標の 11 校に達しなかった。しかし、高等学校演劇研究協議会によると、現在加盟している 16 校のうち、活発に活動しているのは 10 校だとのことで、その実情から考えると参加率は 7 割となり、目標は達成できた。また、申込みは、8 校 63 人だったが、前日からの大雨の影響で、JR 等の運休により参加できない生徒も多数いた。
	②参加者の研修後の反応	②参加者の感想文で、80%以上から高評価を得る。	②80%以上から高評価を得た。
	③顧問による評価	③終了後の聞き取りで、概ね高評価を得る。	③各校の顧問の先生への聴き取りで、ほぼ全員から高評価を得た。

普及啓発事業	①全事業の参加者数 ②「富山県内での出張演劇講座」の波及効果 ③参加者の反応 ④親子での鑑賞機会の提供	①全事業で、募集定員の 9 割を達成する。 ②参加者のうち、公演事業「SCOT サマー・シーズン 2025」へ 50 人が来場することを目指す。 ③アンケート回答者の 80%以上が「たいへん良い」「良い」と回答。 ④親子で参加できる鑑賞会を 1 回開催する。	①親子鑑賞会のみ、募集定員の 68%の応募だったが、ほかの事業は 9 割を達成できた。 ②参加者のうち、56 人が「SCOT サマー・シーズン 2025」へ来場した。 ③アンケート回答者の約85%が「たいへん良い」「良い」と回答。 ④親子舞台芸術鑑賞会を 1 回実施した。
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	「SCOT サマー・シーズン 2025」は、劇団 SCOT が利賀に拠点を移して 50 年というメモリアル・イヤーのプログラムとして、期間も拡大し、50 年の集大成となるような充実した内容で実施できた。利賀の野外劇場でしか上演できない花火劇『世界の果てからこんにちは I 』をはじめとした SCOT の代表作『世界の果てからこんにちは』シリーズの一挙上演や、鈴木忠志が創出した俳優訓練法スズキ・トレーニング・メソッドを体得した多国籍の俳優がそれぞれの母国語で共演する 4 カ国語版『ディオニュソス』など、利賀芸術公園で創造される世界的レベルの舞台作品を連続して観劇することができた観客の満足度も非常に高かった。質の高い芸術活動を 50 年間持続してきたことは、メディアでも特集記事として多く取り上げられ、新たな観客となる SCOT 倶楽部の新規登録者も今年度 1,387 名と目標の 3 倍近くとなった。 　また、「郷土芸能発表会」は、全国大会でも活躍する南砺平高等学校の郷土芸能部の民謡のほかに、今年度は新たに「井波木遣りの会」に出演を依頼したことにより、この地域の郷土芸能の財産の豊かさを紹介することができたことで 95%という高い満足度を得られたと考える。

人材養成事業	
自己評価	コロナ禍と教員の働き方改革の影響で県内の高等学校の演劇部の生徒が他校の生徒と一緒に講習を受ける機会を設けることが難しくなってきている。そのなかで、「高校生夏期演劇講習会」は、プロの講師から学び、同時に他校の生徒と互いに刺激し合いながら作品を作ることができる場である。「富山県高等学校演劇研究発表大会へ向けての練習の取り組みや互いへの声掛けなどに変化が現れ、明らかに作品の質が向上する」と顧問の先生からも好評である。 　当初 2 日間の活動を予定していたが、1 日目の利賀芸術公園での活動が大雨警報が発令されたことにより中止となった。1 日だけの活動となったが、これまで 30 年近く継続している事業なので、顧問と講師との間で信頼関係が構築されており、より有意義な活動になるようプログラムを変更して柔軟に対応することができたため、生徒からも顧問からも高い評価を得ることができた。

普及啓発事業	
自己評価	「出張演劇講座」は、例年は上演作品の見どころを紹介するガイド的な側面が強かったが、今年度は 50 年の歴史を振り返る資料や映像を織り交ぜ、利賀がどのように「演劇の聖地」となったかということを伝える構成にした。このことがアンケートでの高評価と、実際に「SCOT サマー・シーズン」に来場した人が増えたことにつながったと考える。また、富山県内だけでなく、隣県である石川県（金沢 21 世紀美術館）でも開催し、「北陸の文化資源」としてアピールすることができた。 「舞台芸術鑑賞会」では、初めて南砺市内の小学生とその保護者を対象とした「南砺市親子舞台芸術鑑賞会」を実施した。アンケートの中で「利賀の演劇に興味はあっても、子育て世代には観劇はハードルが高いと感じていたが、この企画は観劇と貸切バスがセットになっていたので参加することができた」「親子で観劇後の感想を共有できたことはとても良かった」という高評価の声が多かった。次世代の観客を創出するためにも今後も継続企画とし、周知方法等を再考し、応募者を増やすようにしたい。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①多国籍の俳優による作品上演	①2 作品以上を制作。	①多国籍の俳優が参加する『世界の果てからこんにちはⅠ』と『世界の果てからこんにちはⅡ』、『ディオニュソス』(4 カ国語版)の３作品を制作、上演した。
②外国人の観客数	②「SCOT サマー・シーズン 2025」の観客数のうち 10%以上を目指す。	②外国人観客数は 35 ヵ国から延べ 1,087 人で全観客の 12%であった。
③外国人の観客の満足度	③アンケートの 5 段階評価で上位 2 段階（「満足」「どちらかというと満足」）と回答した人が 90%以上。	③外国人の観客を対象としたアンケートで「満足」「どちらかと言えば満足」と回答した人は 96%で、「不満」の回答はなかった。
④外国人の観客の反応	④アンケートと SNS 等で、概ね高評価を得る。	④SNS 上での観劇の感想は、概ね高評価であった。
⑤英語・中国語の解説や台本等の配布数	⑤200 名分配布を目指す。	⑤約 250 名分配布した。
⑥海外研修生の受け入れ状況	⑥俳優身体訓練を学ぶ演劇塾の参加者数 40 名以上。	⑥演劇塾に 42 名が参加した。

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	SCOT が利賀を拠点に活動を始めて 50 年の節目を記念して、「SCOT サマー・シーズン 2025」の期間を 4 週間に拡大したことで、35 ヵ国から昨年の約 2 倍の外国人観客が訪れ、世界中の演劇人や研究者が利賀に集う「演劇の聖地」としての国際的プレゼンスを再確認した。 英語、中国語、韓国語の作品解説等を外国人観客に配布することで、観劇体験を深めることができ、満足度の高さにもつながった。 また、観客としてだけではなく、「スズキ・トレーニング・メソッド」習得を目的とした海外の演劇人が 42 名長期滞在して利賀で鈴木演劇の思想を学んだことで、次世代の演劇人の国際的ネットワークを強化することができた。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
①「SCOT 倶楽部」県内在住の会友数	①前年度より 200 名増を目指す。	①429 名増えた。
②地元高校生への創造・発表機会の提供	②2 回以上の機会を創設。 ・発表機会として、富山県の高校生による郷土芸能発表会を 1 回実施 ・創造の機会として、高校生夏期演劇講習会を 1 回実施 　計 2 回を予定	②2 回実施した。 ・地元高校生も参加する郷土芸能発表会を 1 回実施 ・高校生夏期演劇講習会を 1 回実施
③シビックプライドの醸成	③アンケートで、利賀芸術公園を「地域の誇りと感じる」等の感想を 60%以上から得る。	③全アンケートの約 70%から「地域の誇りと感じる」等の感想を得た。
④海外演劇人による小・中学校でのワークショップの開催	④アンケートで概ね高評価を得る。	④アンケートのほぼすべてから高評価を得た。

（※4）・（※5）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	・今年で 3 回目となる南砺平高等学校の郷土芸能部による「郷土芸能発表会」は、新 1 年生の初舞台の場として位置付けられ、この日に向けて日々練習を行っている。「入学して、僅か 2 ヵ月という短い期間だが、はっきりとした目標があったことで新入生も集中して修得することができたのだろう」と顧問の先生からもこの発表会の意義を認めてもらっている。また、舞台では劇団 SCOT のスタッフが照明や音響を担当しているので、「他のどの会場で行うよりも美しい舞台で上演できてうれしい」など、生徒から「演劇の聖地・利賀」の舞台に立てたことへの感動の言葉も聞くことができた。今後も学校と協力して継続していきたいと考える。 ・SCOT サマー・シーズン 2025」の開催期間中、飲食ブースのグルメ館で 50 年を記念して地元住民が利賀の特産品の山菜料理や利賀そばなどを提供した。例年よりも利賀住民による出店者が多かったため、観客からも大変好評で、地域ブランドの向上に寄与した。演劇祭の観客と住民が交流する場を創出し、住民が利賀での演劇活動を「地域の誇り」として再認識する機会にもなった。 ・地元の小中学生に海外の演劇人が講師になって、「スズキ・トーレ―ニング・メソッド」を体験するワークショップを行ったが、なぜこのように多くの外国人が利賀を訪れるかを知ることを通して演劇に興味を持ち、実際に観劇につなげることができた。 　また、中学生を対象に「利賀での 50 年の歩み」と題して演劇活動の歴史やそれに伴う海外の演劇人との交流などを学ぶ機会を設けた。南砺市は、演劇および野外劇場を通じてギリシャのデルフォイ市と姉妹都市であり、1986 年から 39 年間、中学生がギリシャを訪れる交流事業を行っている。そこで、自分たちが秋に訪れるギリシャとの繋がりを知り、ギリシャへ利賀を代表して訪れるのだという意識の目覚めに貢献した。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①主要駅から利賀芸術公園への連絡バス、観客・参加者の送迎バスの運行本数	①40 本運行を目指す。	①57 本運行した。
②「SCOT サマー・シーズン 2025」での会場間周回シャトルバス運行本数	②120 本運行を目指す。	②263 本運行した。
③アウトリーチ（出張演劇講座）の参加者数	③5 回開催、120 人の参加を目指す。	③5 回開催、156 人が参加した。
④「お志」（入場料を廃止し、活動への支援金を得る制度）の受入状況	④アンケートで概ね高評価を得る。	④アンケートで「満足」「どちらかというと満足」と回答した人が 90%で概ね高評価だった。
⑤地域通訳案内士による外国人観客対応の満足度	⑤アンケートの 5 段階評価で上位 2 段階（「満足」「どちらかというと満足」）と回答した人が 90%以上。	⑤アンケートで「満足」「どちらかというと満足」と回答した人が 96%と好評だった。

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	目標値すべてを達成できた。特に公共交通機関は市営バスの運行が 1 日 2 往復のみという地域であるため、近隣の JR の駅（富山駅、高岡駅、新高岡駅、福光駅、金沢駅）から会場までの直通の連絡バスを運行したことで、高齢者や遠方からの来場者のアクセシビリティを向上させた。会場となる 6 つの劇場と特設フードコートが約 2 ㎞圏内に点在しているため会場間のシャトルバスの運行も観客から高評価を得た。 ・特設フードコートと休憩所を兼ねる「グルメ館」に地域通訳案内士を常駐させたことにより、外国人観客から「次の公演の会場を教えてもらった」「近くの温泉や世界遺産を観るバスの情報を得ることができた」「ベジタリアン対応のメニューがあるお店を教えてもらえた」など上演時間以外での過ごし方などについてアドバイスを得ることができたと高評価であった。 ・「お志」制度で料金を気にせずに観劇できることで、若い観客や長期滞在して複数演目を観る観客、海外からの観客をさらに増やすことができた。 ・出張演劇講座の参加者や郷土芸能公演の観客の希望者に、「SCOT サマー・シーズン」や「舞台芸術鑑賞会」のチラシを送付したことで、今まで利賀の演劇を観劇したことがなかった人たちを「SCOT サマー・シーズン」の観客として呼び込むことができた。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・①創作環境の充実度 ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①創作環境の充実度 ・レジデント・カンパニー、参加団体が劇場や稽古場で創作発表を行う際、指定管理者が利用者と相談し、長時間施設を使用することができるようにするなど弾力的な運営を行う。	・参加団体からのアンケートで概ね高評価を得る。	参加団体および参加したアーティストへのヒアリングにおいて、「時間の制約なく、作品が求める質に到達するまで試行錯誤できた」「都市部の劇場では不可能な深度での創作が可能だった」と、全団体から極めて高い評価（満足度 100%）を得た。

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	・稽古場、劇場と宿舎や食堂が隣接する利点を活かし、集中を途切れさせず、創作活動に全リソースを投入できる体制を整えた。また、稽古以外の時間を自然の中で過ごせることもアーティストにとって、刺激とリラックスの両方を得られる環境であると高評価を得ている。 ・弾力的な施設運営は、上演作品の芸術的完成度の向上に直結した。特に多国籍の俳優が参加する作品においては、生活を共にしながら長期間稽古を重ねることで、言語を超えたアンサンブルの構築に大きく寄与した。これは、利賀が「世界の舞台芸術のラボラトリー（実験場）」として機能していることを証明するものである。

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

・「SCOT サマー・シーズン 2025」の開催を支える人材として劇団 SCOT の Instagram を中心とした SNS を活用し全国からアルバイトを募集した。仕事の合間に観劇もできることから、毎年人気ですぐに定員に達している。アルバイトの経験者が演劇祭以外の時期に利賀を訪れたり、富山県内へ移住したりしており、関係人口の創出に大きく貢献している。

・「高校夏期演劇講習会」に参加していた高校生が、教員となって今年度の事業の中心として運営に参加したり、社会人となり友人と一緒に観劇に訪れたりと継続してきた事業が長いスパンでみた人材育成、創客につながっていると感じた。

・早稲田大学と慶応義塾大学で地方創生や演劇を学ぶ学生が、利賀の住民と協力して利賀で生産された食材を使って新たな特産品を開発してグルメ館で販売したり、観劇の合間に観客が簡単なゲームをできるブースを運営したりと若い柔軟なアイデアで賑わいを創出した。また、早稲田大学の融資による「劇団スットコ」を結成し、「SCOT サマー・シーズン」にあわせて利賀住民を招いた公演を実施するなど、学生たちが新たな活動を展開している。

・グルメ館で地元の子供たちによる郷土芸能「利賀の初午」の発表の機会をつくった。外国人観客にも好評で、子供たちの励みにもなり、地元住民が郷土芸能を継承していくことの重要性を再認識することにも寄与した。

・今年 50 年という節目を迎えたことで、多くのメディアに取り上げられたが、単に 50 年の節目の演劇祭を行ったという記事だけではく、地元北日本新聞の「利賀に生きて　劇団 SCOT50 年」や読売新聞の「SCOT と利賀村の 50 年」といった連載記事、NHK のニュース解説で地域での世界的レベルの芸術活動の先進事例として取り上げられるなど過疎の地で演劇を通して行ってきた社会事業の意義や成果についての報道が多かった。

・今年は「SCOT サマー・シーズン」の第 1・2 週目と前半に舞台芸術鑑賞会を行ったことにより、参加者が「他の演目も観てみたい」と、3・4 週目の観劇予約をするという好循環を生むことができた。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	獲得に努めている。	拡充に努めている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	協賛金 100,000 円を獲得した。	
団体の自己評価	近隣の国際キャンプ場の指定管理を受けている団体と互いの事業の PR や運営の協力を行うとともに資金面でも協賛金という形で協力を得た。	

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	事業運営を行っている。	人材や財源の確保等が期待できる。
目標(値)（※2）		
実績(値)	メティス（南砺市)、K-HALL(黒部市)、金沢市 21 世紀美術館（金沢市）と協力し出張演劇講座を行った。	
団体の自己評価	利賀以外で事業を行うことにより利賀の演劇を広く知らせることができ、「SCOT サマー・シーズン 2025」の集客にもつながった。	

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

評価の観点	(オ) 芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	(カ) 長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	配置されている。	経営実務者が配置されている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	(キ) 専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	(ク) 職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	専門人材の確保や育成に努めている。	役割分担されている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	人材確保を行っている。	女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	制度を整備し、推進している。	規程の策定や必要な研修を行っている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	必要な研修を行っている。	契約書を交わしている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価

本年度は、劇団 SCOT が利賀に拠点を移して 50 年という大きな節目を迎えた。
「芸術を求心力としたサステナブルな文化拠点づくり」を中核に据え、半世紀にわたる歴史を継承しつつ、次なる 50 年に向けた新たなモデルを提示し、所期の目的を達成した。

【継続的な質の高い芸術活動】
・SCOT サマー・シーズン 2025
　　鈴木忠志氏演出の代表作である『世界の果てからこんにちは　Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』 三部作の一挙上演

【次世代の芸術の担い手、観客の育成】
・高校生夏期演劇講習会
・郷土芸能発表会
・出張演劇講座
・舞台芸術鑑賞会

【国際的なネットワークの形成】
・4 カ国語版『ディオニュソス』を創造・上演
・利賀演劇塾に 26 ヵ国から 42 名が参加

利賀芸術公園は世界的にもめずらしい 6 つもの劇場、150 人を収容できる宿舎など創造・人材育成に適した施設群の維持活用と、そこから生み出される舞台作品の継承に注力した「創造拠点」であると同時に、芸術を求心力として地域社会の持続可能性を支える「サステナブルな文化のインフラ」としての役割を、より強固なものへと発展させることができた。
利賀での活動が 50 年という半世紀に達した今、利賀芸術公園は単なる舞台芸術の創造・上演の場ではなく、世界中の演劇人が思想を学び、地域住民が自らのアイデンティティを再確認する「聖地」としての唯一無二の価値を確立している。本年度、メディア掲載数が目標を 10 倍以上上回る 105 件に達したことは、この地での歩みが「北陸の文化資源」として社会的に極めて高く評価されていると言える。
今後は、この 50 年で築き上げた「世界と地域が直結するモデル」を基盤に、より開かれた拠点づくりを発展させたい。アーカイブの発信や、若年層がより訪れやすい環境整備（アクセシビリティのさらなる改善等）を継続し、人口減少社会における「文化の力による持続可能な地域モデル」の先駆者として、次の半世紀に向けた歴史を刻み続けていきたい。

備考

評価項目⑥：運営体制と持続可能性について、R 7 年度評価補助シートに目標値を定めていなかったが、一部項目について実績と評価を記入した。